

# PFAS とはなにか？

## どう立ち向かうか？



日時

5月10日(土)

14:00~16:00

場所 京都府保険医協会会議室 + Zoom

主催 京都府保険医協会 環境対策委員会

講師

### 小泉 昭夫氏

京都保健会 社会健康医学  
福祉研究所所長、京都大学  
名誉教授

全国で汚染が問題になっている PFAS(有機フッ素化合物)について環境省は新たな方針を発表。水道水の規制について水道法上の「水質基準」に引き上げましたが、規制値そのものは国際的にも非常に緩い PFOS・PFOA 合計 50ng/L と高いままです。

京都府内の河川でも「暫定指針値」をはるかに超える値が検出されていますが、汚染源に対する自治体による調査や対策をとらせることはできないままになります。

世界保健機関(WHO)傘下の国際がん研究機関(IARC)は 2023年 12 月に PFOA について「ヒトへの発がん性がある」(クラス1)、PFOS は「ヒトへの可能性がある」(クラス2B)と評価しましたが、内閣府食品安全委員会の専門家会議は、発がん性に関しては「一貫性が無い」と無視し、一日耐用量については 2019 年の水道水の暫定基準の根拠となった動物実験の値 20ng/kg/日を踏襲しました。その結果「水質基準」に引き上げても安全性は改善しない結果となっています。

規制・対策についての日本政府の消極的な姿勢が際立つなか、この問題に長く警鐘を鳴らされた講師に、これからどう立ち向かっていくべきなのか、なにが問題なのかをおききします。

参加無料

申込み(5月8日まで) →



※会場参加は定員になり次第、

Zoom をご案内します